

その静かな佇まいが  
揺るぎない信仰心を  
伝えてくれる。

世界遺産の島  
久賀島  
HIKAWA ISLAND

## 翌

日、訪れたのは旧五輪教会堂。  
久賀島で初めて建てられた初代の浜脇教会は五十年間使われたのち、老朽化のため、建て替えることとなった。その時、「私たちの地区に教会堂を譲ってほしい」と手を挙げたのが、島の東岸にある五輪集落の人々だった。こうして初代浜脇教会は五輪地区に移築され、五十四年にわたって祈りの場としての役割を果たした。現在は新しい教会堂の隣で、旧五輪教会堂として大切に守られている。

旧五輪教会堂は和風の外観ながら、内部は板張りのリブ・ヴォールト天井やゴシック風の祭壇など、教会建築の様式が見られる。「旧五輪教会堂は、この島の船大工さんたちが作ってくれました。入口部分のステンドグラスをご覧ください。実はこれはステンドグラスではなく、透明ガラスの間に、カラーのセルロイド板を挟んだものなんです。ステンドグラスを購入する資金がなかった信徒たちが、工夫を凝らして施した装飾で、大変珍しいものです」と川口さん。現存する木造最古の教会堂は損傷が激しいものの、いたるところに当時の人々の祈りが感じられる。

国の重要文化財に指定されている旧五輪教会堂は二度の危機を免れて今があるという。一度目は前述したように、初代浜脇教会時代に老朽化で取り壊されようとした時。そして二度目もまた老朽化により、解体されようとした時。その寸前、待ったをかけたのは、島内の一人の信徒であった。この助言によって価値が再確認され、文化財として保存されることが決まったという。

旧五輪教会堂へは車で行くことができない。車の場合、十五分ほど山道を歩くことになる。それほど不便な場所でも潜伏キリシタンの人々は代々、信仰を守り続けてきた。帰り道、防波堤を歩いていると、小さなピンク色の花が咲いているのに気付いた。川口さんが、この辺りでよくみられるハマヒルガオの花だと教えてくれた。石ころの隙間から凛と顔を出す一輪の花の姿に、この島に生きる人々の強い信仰心が重なった。



大きな樹木の下に立つと、緑の間から旧五輪教会堂(左)と五輪教会(右)が並んで見えた。川口さんおすすめの風景。(中央の建物は教会守の待機所)

## 旧五輪教会堂

